

中央アルプス

太田切川支流中御所谷

2000年10月1日

成瀬陽一(海綿体)、松原憲彦(北大山の会)

10月1日(曇り時々晴れ) 駐車場からバスでしらび平へ。10分とかからず日暮しの滝に着き、金物を身につけて早速ロープを延ばす。この2段の滝のルートは一目瞭然、残置ハーケンの多いカンテラインなのだが、見た目よりは易しくない。ツルベで登り、左に曲がると「登山大系」の写真のチョックストーン滝が現れる。簡単に巻けるが、折角なので右手のカンテを登る。これが本日一番登りごたえのあるルートだったか。その後も、花崗岩の快適なスラブ滝がどんどん続く。二人であるのをいいことにどんどんロープ出して、バンバンのぼってく。それにしてもなんと残置の多いことか。無意味なボルトも多すぎる。リスがこんなに豊富にあるというのに、だ。標高2040mからゴルジュ状だが殆ど高巻かずに中を行ける。巻いたのは標高2250mの地図の滝印のもののみ。ここ中御所谷は、もはや「ゲレンデ」と化している。詰めはカールを目指す。日高のカール同様に、藪漕ぎなくボンと開放的な空間が広がる。紅葉は今一つか。流石に千畳敷には人が多い。ロープウェイで下山中、ゴルジュ帯を除いて概ね本日のルートが復習できた。

中御所谷は、アプローチと下山が手軽で一日で抜けられる事、明るく堅い花崗岩でしかも残置ハーケンが非常に多い事から、沢登りにおけるザイル操作の練習にはもってこいのルートだと言える。(松原憲彦)

タイム しらび平発9:15-千畳敷カール着15:30

地図 木曾駒ヶ岳

グレード 3級